

昆虫④

カブトムシ飼育の基本

昆虫担当 中峯浩司

カブトムシの幼虫は夏の後半にふ化し、今は小さな子どもの手のひらに乗るくらいに育っている時期です。みなさんの飼っているカブトムシの幼虫は元気でしょうか。

○カブトムシの一生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12(月)
幼	幼	幼	幼	幼	幼	蛹	蛹	成	成	成	
						成	成	卵	卵		
						幼	幼	幼	幼	幼	幼

○冬越しに備えよう

幼虫はふ化してから2回脱皮して3齢幼虫となって冬を越します。成長が早いと飼育箱の中が糞だらけになっていることがあります。その場合は新しいえさと交換します。市販の飼育マットは春には品切れで入手が困難になることもありますので、翌年の春用のえ

さも併せて準備しておきましょう。

○冬越しは野外と似た条件で

飼育箱を置く場所は、暗くて寒いところが温度変化も少なく、カブトムシにとっては快適です。暖かい部屋や日の当たる場所に置く必要はありません。

○春は食べ盛り

4月頃、暖くなると再び活動を始め、活発にえさを食べ始めます。表面に糞が目立ってきたら新しいえさと交換します。えさの交換は5月中頃までに済ませましょう。

○蛹は大事に動かさず

蛹の時期に衝撃を与えるとうまく成虫になれません。掘り返したりしないで、成虫が出てくるのをじっと待ちましょう。

詳しくは県立博物館まで（電話 099-223-6050）

鹿児島の岩石・化石④

「化石の島“獅子島”」

地質担当 桑水流淳二

獅子島は鹿児島県の最北端に位置する周囲約25kmの島です。この島は昔から多くの化石が見つかることで全国的に有名です。首長竜が発見されたことで脚光を浴びましたが、先月、化石調査をした際、見つけた主な化石を紹介します。

まず、アンモナイトのなかまです。殻の表面にイボ状の突起をもつ**グレイソニテス**は大きさが約30cmで、北海道からも見つかり、獅子島との地層の関係を知る上で重要な化石です。また、巻の部分の部分が解け、三角錐の形をした**マリエラ**も見つかりました。

次に殻の形が三角形をした三角貝（トリゴニア）のなかまで、両側の殻を広げると翼（プテロ）のようにみえることから**プテロトリゴニア**とよばれる二枚貝の化石が見つかりました。この貝は、暖かく浅い海にすんでいたことより、これらの化石を含む地層がたい積したときの環境を知る上で重要な化石です。

この他、直径約30cmもある二枚貝の**イノセラムス**や巻貝の**トゥリテラ**を主とする化石の密集層なども見られます。

これらの化石は、今から約9,800万年前の生物で、今はその生きていた姿を見ることはできませんが、多くのことを私たちに教えてくれます。

獅子島で見つかる主な化石（図は「御所浦の地質」より）



グレイソニテス

マリエラ

プテロトリゴニア

イノセラムス